



TITLE:

## 系統発生分野(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

瀬戸口, 烈司; 相見, 満; 高井, 正成

---

CITATION:

瀬戸口, 烈司 ...[et al]. 系統発生分野(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報  
1994, 24: 16-17

ISSUE DATE:

1994-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164621>

RIGHT:

Y., Suzuki, J., Ishida, T., Varavudhi, P. and Malaivijitnond, S. (1993): Multiple *aglobin* genes in crab-eating macaques (*Macaca fascicularis*). The Second Intercongress Symposium of The Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology (Chiangmai), Abstracts:77-78.

- 4) Tanaka, M., Hirai, H., Nagafuchi, S. and LoVerde, P. T. (1993): Yeast artificial chromosome (YAC)-based genome mapping of schistosomes. Gordon conference, June 27-30, 1993 in USA.
- 5) Tanaka, M., Hirai, H., Nagafuchi, s. and LoVerde, P. T. (1993): Yeast artificial chromosome (YAC)-based genome mapping of *Schistosoma mansoni*, a multicellular trematode parasite. Human Genome Mapping Workshop 93 (Kobe, Japan), Program & Abstracts, 105.
- 6) Varavudhi, P., Malaivijitnond, S., Kawamoto, Y., Suzuki, J., Yodyingyud, V., Intawat, C. and Ekavipasti, C. (1993): Serum levels of sex steroids, TSH and Thyroxine in free-ranging Assamese macaque, *Macaca assamensis* inhabited in northwestern Thailand. The Second Intercongress Symposium of The Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology (Chiangmai), Abstracts:102-103.

#### 一和文一

- 1) 針原伸二・尾本恵市・B. スリョプロート・川本芳・竹中修 (1993): ミトコンドリア DNA 変異からみたスラウェシマカクの種分化. 第9回日本霊長類学会, 霊長類研究, 9(3):291.
- 2) 平井啓久 (1994): YAC-FISH を用いた住血吸虫類のゲノム解析. 国立遺伝学研究所共同研究会「染色体研究の現状と展望—新しい手法による動物・植物染色体研究の統合—」(三島) 1994年1月5日—6日.
- 3) 嶋田誠・野澤謙・川本芳・庄武孝義・三輪宣勝 (1993): 多座位電気泳動法によるヒト上科系統樹の評価. 第9回日本霊長類学会, 霊長類研究, 9(3):290.
- 4) 庄武孝義 (1993): エチオピア, セミエン山岳地帯のゲラダヒヒの繁殖集団の大きさ. 日本ナイ

ル・エチオピア学会, 第二回大会 (名古屋) 1993年4月23日.

- 5) 渡邊 毅・浜田 稔・竹中 修・渡邊邦夫・川本 芳・B. スリョプロート (1993): スラウェシマカクにみられた雑種形成. 第9回日本霊長類学会, 霊長類研究, 9(3):285.

#### 系統発生分野

瀬戸口烈司・相見 満・高井正成

#### 研究概要

A) 南アメリカにおける第三紀の化石霊長類の研究

高井正成・瀬戸口烈司

- (1) ボリビア国のサジャ地域において後期漸新世 (約2500万年前) の地層の発掘調査をおこない, 最古の広鼻猿類化石 *Branisella* の新標本を発見した。この標本の系統的記載をおこないながら, 広鼻猿類の起源に関する問題について研究をおこなっている。

- (2) コロンビア国のラベンタ地域において中期中新世 (約1500万年前) の地層の発掘調査をおこない, 現生広鼻猿類に近縁なさまざまな化石霊長類の標本を発見した。これらの化石種と現生種との関連性をもとに, 現在の広鼻猿類の形態的な多様性について系統分類学的研究をおこなっている。

B) パミール地域における歯科人類学的研究

高井正成

パキスタン最北部のフンザ地域と中国新疆ウイグル自治区のスバシ村において歯科検診をおこない, 食生活の変化による歯科疾患の増加について検討した。また, 同時に歯列の印象採得をおこない, 同じモンゴロイド系のタジク人と, 現在の日本人の歯牙の計測値の比較検討をしている。

C) インドネシアにおける第四紀霊長類の研究

相見 満

インドネシアの現生および化石霊長類の系統・進化・分類について, 詳細な研究をおこなった。

#### 論 文

一英文一

- 1) Aimi, M. (1994) Numerical variation of vertebrae in Japanese macaques, *Macaca fuscata*. Anthropol. Sci., 102(Suppl.):1-10.

## 報告・その他

### 一和文一

- 1) 相見 満(1993): 学名の話(15) 台座に秘められた歴史(1). モンキー, 247: 14-17.
- 2) 相見 満(1993): 学名の話(16) 台座に秘められた歴史(2). モンキー, 248: 13-16.
- 3) 相見 満(1993): 学名の話(17) エリマキキツネザル. モンキー, 249: 10-11.
- 4) 相見 満(1993): 学名の話(18) 地球上に生物は一体何種いるのか. モンキー, 250, 251: 12-15.
- 5) 高井正成(1993): アンデス山中における化石発掘調査と調査地の現状について—最古の広鼻猿類化石の再発見—. ヒマラヤ学誌, 4: 69-75.

## 学会発表

### 一和文一

- 1) 松野昌展・高井正成・金澤英作(1994): パキスタン高所住民(Tajik)の歯に見られる形態学的特徴. 第99回日本解剖学会, 日本解剖学会講演予稿集
- 2) 高井正成・F. アナヤ(1993): 最古の広鼻猿類化石(*Branisella boliviensis*)の新標本について. 第9回日本霊長類学会, 霊長類研究9(3): 287
- 3) 高井正成・瀬戸口烈司(1993): 南米コロンビア国の中期中新世の霊長類化石—顕著な多型性を示す化石種として—. 日本古生物学会第142回例会, 講演予稿集

## 社会生態研究部門

### 生態態機構分野

杉山幸丸・森 明雄・山極寿一

### 研究概要

- A) 西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動・生態学

杉山幸丸・山極寿一・山越 言<sup>1)</sup>

全個体識別のもとに長期追跡してきたギニア国

ボッソウの野生チンパンジーについては、堅果割りをはじめとする道具使用行動の詳細な観察とVTR記録の分析、整理を進める一方、野外実験も含めて、道具使用行動全般について発達と伝播の記録・分析を行った。また、近隣個体群との遺伝的・文化的交流関係の分析のため、隣国のコートジボアールにまで広がるニンバ山地での調査を開始した。さらに、生息地の資源量測定と土地利用、採食量把握の試みも開始した。

一方、ウガンダ国ブウィンディ国立公園とガボン国プティ・ロアング保護区では、同所的に生息するゴリラとチンパンジーの採食生態に関する調査を行った。山地林と海岸域の熱帯林という異なる環境における2種の類人猿の共存のメカニズムを分析した。

### B) エチオピアに生息するヒヒ類の研究

森 明雄

ヒヒ類の重層社会を行動学的に分析することを目標としている。過去2年間、アジスアベバの北150kmのウオフワッシャでゲラダヒヒの観察を進めてきたが、本年はエチオピア南部の治安が回復し、南部アルシ州で見つけたゲラダヒヒの新しいポピュレーションの調査を再開した。新ポピュレーションの遊動域、ユニットの構成、社会行動は、従来知られているゲラダヒヒのポピュレーションとかなり異なった特徴を持つとの予備的結果を得た。さらに、南部で、マントヒヒとアヌビスヒヒの雑種化の様相を調べるために広域調査を行った。

### C) ニホンザルの採食・繁殖生態と個体群動態の研究

杉山幸丸・森 明雄・山極寿一・

Joseph Soltis<sup>2)</sup>

ニホンザルの個体の社会的地位と採食・繁殖戦略との関係の解明のため、大分県高崎山、宮崎県幸島、鹿児島県屋久島の餌づけ群および自然群を対象に研究を進めてきた。食物の時間的、空間的分散の変化のもとで性、年齢、社会的地位の相違により採食行動にあらわれる差の把握につとめ、また、栄養量測定に基づく摂取栄養量の把握と、それらが繁殖成功度と関係している様を検討してきた。特に、幸島群では、採食スピードの時間的変化の解析と、性成熟の遅滞現象に焦点を置き、

- 1) 大学院生      2) 研究生